上田八木短資



ウィークリーシグナル

2021年1月8日

<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位:億円)

| 日付 | | 資金需給予想 財政等要因 | | 主な要因 | オペ期日 | オペスタート | イベント |
|----------|---------|-----------------|----------|------------------------|-----------------|--------|---|
| 1/11 (月) | | | | | 祝日 | | |
| 1/12 (火) | + 2,300 | ▲ 35,400 | ▲ 33,100 | 国庫短期証券発行・ 償還(3M・6M) | CP等買入 ▲ 500 | | 日: 貿易収支(11月) 米: ボストン・ダラス・ミネアポリス連銀総裁の講 演 |
| 1/13 (水) | + 3,000 | + 2,000 | + 5,000 | | 共通担保(全) ▲ 4,600 | | 米:財政収支(12月)、CPI(12月) |
| 1/14 (木) | + 2,000 | ▲ 33,000 | ▲ 31,000 | 国債発行(5年) | | | 日:日銀支店長会議、黒田総裁あいさつ さくらレポート(1月) 米:財政収支(12月)、CPI(12月) |
| 1/15(金) | + 2,000 | ▲ 2,000 | トン | 国債発行・償還 (個人) | 被災地支援 ▲0 | | 米:PPI(12月) |

<インターバンク>

日銀当座預金残高は年初493兆2,500億円から始まった。その後は6日の税保険揚げ・国庫短期証券の発行や7日 の10年債の発行により、7日には489兆500億円まで減少。週末には489兆5,000億円となった。

無担保コールON物加重平均金利は、年初4日から7日までriangle0.019% \sim riangle0.018%で推移した。週末8日は積み期 終盤の4日積みの要因により地銀業態の調達意欲が高まったことで同金利は上昇し、 \triangle 0.016%となった。ター ム物は $1W\sim2W$ 物を中心に、主に $\triangle0.025\%\sim\triangle0.015\%$ の水準で出合いが見られた。

来调の主な予定は、国内で11月貿易収支の公表(12日)や、1月さくらレポートの公表(14日)があり、海外 では米12月CPI及び財政収支の公表(14日)や米12月PPIの公表(15日)などがある。

足許GC取引は週初riangle 0.085%riangle riangle 0.075%の出合いから始まり、短国買入オペがオファーされた7日受け渡しは、 [オープン市場]△0.10%まで出合うなどレートが低下した。翌日にはややレートを戻し、短国3M・6Mの発行日となる12日受 け渡しは、△0.085%~△0.075%と週初の水準まで上昇し越週した。他2年408~420回債、5年137~145回債、 10年336~361回債、20年169~174回債、30年59~69回債、40年10~13回債などに引合いが見られた。

[無担保コールレート]

| | 予想レンジ(%) |
|-----|--------------------------------|
| O/N | \triangle 0.087 \sim 0.001 |
| 1M | △0.030 ~ 0.030 |
| 2M | $0.000 \sim 0.040$ |
| 3M | $0.000 \sim 0.070$ |
| 6M | $0.000 \sim 0.130$ |

| | 予想レンジ(%) |
|---------------|-----------------|
| 現先 (on/1w) | △0.05 ~ 0.00 |
| TDB 3M | △0.120 ~ △0.070 |
| CP 3M | △0.05 ~ 0.00 |

<TDB>

5日の3M962回債(4/5償還)の入札は、最高落札利回り△0.0820%(前回債△0.0893%)、平均落札利回り△0.0861%(同△0.0942%)となり、入札 後△0.083%近辺の出合が見られた。8日の3M964回債(4/12償還)の入札は、最高落札利回り△0.0851%、平均落札利回り△0.0883%となり、入札 後△0.089%~△0.087%の出合が見られた。7日の6M963回債(7/12償還)の入札は、最高落札利回り△0.0866%(同△0.0902%)、平均落札利回り \triangle 0.0886%(同 \triangle 0.0922%) となり、入札後 \triangle 0.092% \sim \triangle 0.09%の出合が見られた。そのほかセカンダリーでは概ね3M物が \triangle 0.087% \sim \triangle 0.082%のレンジ、6M物が \triangle 0.10%近辺、1Y物が \triangle 0.12%近辺で取引された。

<C P>

今週の入札発行総額は約1兆円で、週間償還額(約3,600億円)を大きく上回った。四半期末で、残高調整を行った事業法人の発行再開の動きが強く、 複数の業態で大型発行がみられた。また、政府による緊急事態宣言の検討もあり、予防的な資金調達のニーズが強まり、マーケットは発行超となっ た。発行残高は12月末の23兆5,654億円から、7日時点で24兆4,508億円に増加した。発行レートは、△0.05%~0%近辺での出合いであった。来 週の週間償還額は、約4,000億円程度となっている。先週同様、事業法人の発行再開や予防的な資金調達が予想されるため、発行超となるだろう。 発行レートは、投資家の運用ニーズが強く、マイナスから0%近辺の出合いが中心と思われるが、CP等買入オペ見合いや新型コロナ金融支援オペ等 の対象銘柄では強いマイナスレートでの出合いを予想する。14日に、CP等買入オペが6,000億円でオファーされる予定となっている。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資 家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全 性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。